

受け入れる側のメッセージ

夢を持って酪農に 挑戦できるように



私の牧場では、50年以上前から新規就農を希望する方を受入れています。いろいろなケースに直接関わってきましたが、「農業をやってみよう」という強い志を持っていることはもちろん、地域ととけこみ周囲の人とコミュニケーションがとれる協調性も重要です。最初は難しくても、徐々に打ち解けて慣れていけばいいのです。ほとんどの場合、初めて酪農を経験するのですから、何もかもが順調に進むわけではありません。やはり忍耐

力が求められることもあるでしょう。私自身も技術的な指導は細かくてキビしいかもしれませんが、でも、プライベートは優しいと思っています(笑)。

新規就農を希望する方だけではなく、そのお子さんも酪農に夢を抱く環境づくりが大切だと考えています。一代限りで離れるのではなく、夢をもって挑戦できる「魅せる酪農」であり続けたいですね。



(同)向井地牧場

むかいち のぶゆき

向井地 信之さん(枝幸町)

向井地さんの経営データ(R2年) 受入農家

- 乳用経産牛/96頭 ●年間生乳生産量/722.0t
- 乳用育成牛/16頭 ●経営面積/94ha

PROLOGUE

めぐみと壮也と酪農の夢を探して
北海道のてっぺんへ!

壮也とめぐみは北海道の大学に通うクラスメイト。将来の選択肢に就農を考え中のめぐみはテレビでサロベツ原野の放牧風景を見て大感激。酪農にちょっと興味があると語っていた壮也を誘って宗谷エリアに酪農の夢探しの旅に出ることにしました。さあ、二人と一緒に北海道のてっぺんへ!

OME to YA



将来は酪農をやりたいと思っま〜す!

酪農の現場ってどんなかな?

PROFILE

天辺(あまべ) めぐみ
20歳 道内の大学3年生

将来は酪農を仕事にしたいと考えている。しっかり者で時々毒舌。

PROFILE

北上(きたがみ) 壮也
20歳 道内の大学3年生

能天気でおちょこちょい。酪農にはちょっと興味を感じている。

北海道のとっぺん! 宗谷ってこんなイイところ

宗谷のプロフィール

宗谷の自然や暮らしについて、横顔を紹介します。



宗谷の自然

地勢

宗谷エリアは北海道の北部に位置し、西は日本海、東はオホーツク海、北は宗谷海峡の三方が海に面し、南は上川・オホーツク・留萌エリアに接しています。宗谷岬からは、サハリン(旧樺太)が眺望でき、日本海には、利尻島・礼文島があります。

面積

4,625.70km²(北海道の総面積の約5.5%)、ほぼ京都市府の面積に匹敵しており、東西148.2km、南北100kmに及んでいます。

宗谷の動植物

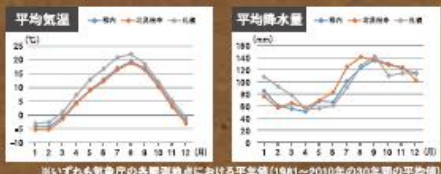
[動物] エゾシカ、コハクチョウ、オオワシ、ゴマフアザラシ
[植物] ハマナス、エゾカンゾウ、チシマザクラ、エゾヤマザクラ



気候

「冷涼な気候」
稚内などの沿岸部では夏でも最高気温が30℃を超えることはほとんどなく、梅雨のない涼しい気候が特徴。内陸部では最高気温が30℃以上の真夏日となる地域もあります。一方冬は暖流である対馬海流の影響で最北端でありながら比較的温暖です。牛は涼しく乾燥した気候を好むので、酪農を行うのに適した地域です。

「海が近い」
オホーツク海と日本海に囲まれ、豊かな水産物に恵まれている地域です。北海道の内陸部では冬は最低気温が-30℃を下回る地域がありますが、沿岸部では海が近いので-20℃以下になることはありません。



※いずれも気象庁の各観測地点における平年値(1981~2010年の30年間の平均値)

秋葉牧場

豊谷町



令和2年就農

秋葉 杏平さん(35歳)
麻衣さん(32歳)

健康で良い牛を飼うために
固定概念にとらわれず、柔軟に変化しながら

毎日が勉強。
どれだけ牛に対して
手間をかけられるか



秋葉さんの就農まで

妻の
叔父の牧場を
手伝い始める

酪農ヘルパーとして
2年間経験を積む

令和2年9月
新規就農



豊谷町育ちですが、酪農とはあまり縁のない生活を送っていました。学校卒業後、削蹄所や建設会社、伐採や植林を手掛ける林業会社などに勤めていたのですが、非常に体力を使う仕事で長く続けることは難しいと感じていました。そんな時、酪農家である妻の叔父が体調を崩して妻が手伝いに行くことになり、自分も時間があれば手伝いに行き始めました。

子どもが生まれたことをきっかけに、金銭面や将来のことを考え、自分がしてあげられる最大限のことをしてあげたい、と身近だった酪農での新規就農を選びました。

新規就農すると決めた後は、酪農ヘルパーとして技術を習得する傍ら、書籍やインターネットを使って勉強しました。また、どんな経営をしていくか、飼養管理はどうか、具体的に決めていくように意識していました。今でもその考え方を続けています。

就農前は、もっと苦勞するだろう、精神的に苦しいだろう、と想像していましたが、いざ就農してみると真逆です。仕事は充実していますし、酪農ヘルパーを利用して休みをとり、家族で旅行の時間をとることもできます。

大きな目標として、「健康で良い牛を飼う」掲げています。常に勉強して情報を取り入れ、その内容を自分の牧場に落とし込んでみる。その時々で状況は変化しますし、やり方や考え方も変わっていきます。手段と目的を取り違えないよう、固執するのではなく、牛と相談して柔軟に変化させながら牛飼いを続けていきたいです。

秋葉さんの経営データ(R4年)

- 乳用妊産牛/43頭
- 年間生乳生産量/340.0t
- 乳用育成牛/12頭
- 経営面積/60.0ha

